

「次世代にきれいな水と豊かな自然を残すため、せっけんの使い手を増やそう」と、せっけん運動ネットワークで開催している「シャボン玉フォーラム」。グリーンコープ生活協同組合おおいたが担当した今回で35回目となりました。理事長の岩崎が現地参加しました。

10/17 武本匡弘さん「海から見る地球 ～気候変動と海洋プラスチック問題～」

「プロダイバーとしてサンゴがどんどん死んでいく海を見てきて、気候変動は、環境だけではなく、子ども達の未来を奪う人権問題でもあると実感しています」と武本さん。例えばウミガメは産卵された砂地が29℃以上で雌になりますが、今は116:1で雄が圧倒的に少なく、温暖化の影響は深刻です。

海洋プラスチック調査で航海にでると、世界中でポリ袋を見ない海はない。一番多いのは化学繊維で、洗濯時に流出します。これをなんとかしたいと、武本さんはプラスチックフリー店「エコストア パパラギ」も運営しています。「鎌倉市で1人の小学生が、給食のストロー不使用運動を展開し、市を動かした例もあります。1人からでも政治や経済システムを変える運動につなげていくことで、気候変動は止められます」と語りました。



ダイバーの立場から話す武本さん

10/18 榎田博さん「暮らしに潜む有害化学物質～環境ホルモン・香害～」

化学物質の中の「内分泌攪乱物質(環境ホルモン)」。ホルモンに擬態したり、その働きを妨害します。例えばデスクマットの可塑剤(フタル酸エステル)は、手から体内に浸透、胎児の生殖器に发育不全等を起こします。他にも感熱紙(ビスフェノール)、日焼け止め(4-MBC)など「身近にある危険を知り、まずは自分が使わない、次に皆の意見でメーカーに代替品を開発させる。これが、消費者ができる社会運動です」と榎田さん。香害、PFAS問題についても、
・香り成分が①肺から②口から消化器へ③皮膚から血液へ④眼球から、などのルートで体内に入り反応を起こす「香害」。その発症メカニズムはまだ研究中だが、「香り=健康被害の原因」ということを、当事者以外の周囲が語り、理解を広げることが大切。

・PFOAやPFOSなど「有機ハロゲン化合物」は環境中で分解されず、残留し続けるのが大問題。早急に規制するべき。と訴えました。



分科会講師の榎田さん

次回シャボン玉フォーラムは福島県で10月2日開催予定

第28回通常総会と講演会のお知らせ

2026年5月22日(金)、10時から当NPO理事の榎田博さんを講師に講演会、14時からは通常総会を開催予定です。会場は、ミレニアムセンター佐倉2階ホールです。

4月29日(水・祝) 工場オープンデー@手賀沼工場 開催!

工場見学ツアー・大釜の中で写真を撮ろう・パンや野菜、輸入雑貨、手作り品等のミニマルシェ・こねこねせっけんワークショップ・抹茶で一服コーナーなどを企画しています。お楽しみに!ぜひ手賀沼工場に遊びに来てください。

NPO せっけんの街では会員を募集しています
ぜひお友だちをお誘いください(*^-^*)

【年会費】 個人 3,000円 団体 10,000円

【会員の特典】

- ① 会報の送付
- ② せっけんの街の製品、仕入れ商品が会員特価で購入できます。
- ③ 活動に参加すると、活動費・交通費が支給されます。



せっけんの街

会報 No.90

〔発行〕
 特定非営利活動法人せっけんの街
 住所：千葉県柏市小青田 29-2
 電話：04-7134-0463
 FAX：04-7134-7468
 H P：https://sekkenomachi.org
 〔発行責任者〕岩崎明子
 〔発行日〕2026年2月28日
 〔会員数〕個人 208 団体 39
 1月31日現在



ふたつの工場を次の世代へつなげたい!!

手賀沼工場と印旛沼せっけん情報センターの現状と寄付のお願い

手賀沼工場長 阿部とも

私たちNPOが運営する手賀沼せっけん工場は、設立から41年が経ちました。いまでも週5日稼働し、職員のほか理事会や会員の活動、外部スタッフの受入など、日々製品づくりや活動の拠点として活用されています。一方で、長年の使用により、建物や設備の老朽化が目立つようになってきました。現在、『屋根』『電気設備』『製造設備』『排水設備』について、修繕の必要性や内容を見極めるための点検・検査を進めているところです。特に『屋根』の一部では雨漏りが見つかり、対応を急ぐ必要があります。



工場をこれからも安全に使い続け、せっけん製造を続けていくために、必要な修繕を段階的に進めていきたいと考えておりますが、資金が厳しい現状です。そこで、目標額を20万円とし、会員の皆様にご無理のない範囲での寄付をぜひともお願い申し上げます。屋根を中心とした初期対応や調査費用に充てる予定です。皆さまのお気持ちを力に、手賀沼せっけん工場を次の世代へ引き継いでいきたいと思っております。ご支援よろしくお願いたします。

印旛沼工場長 鈴木裕子

印旛沼せっけん情報センターは、本年度創立32年目を迎えました。これもひとえに、会員の皆様の長年にわたるご支援とご愛顧の賜物と、心より感謝申し上げます。

せっけんの街では、ボランティアの皆様のご協力と経営努力により、質の高いせっけんをできる限り安価でお届けできるよう努めてまいりました。しかしながら、ボランティアの担い手不足や原料価格の高騰、売り上げの低迷などにより、運営は厳しい状況にあります。

また、工場設備の老朽化により不具合発生リスクが高まっており、現在は支障が生じてから修理・交換を行っている状況です。せっけん窯の製造企業は既に存在せず、万一不具合が起きた場合、復旧までに時間を要し、供給が停止する恐れもあります。

致命的な故障が起こる前に修繕を行いたいところですが、回収車や窯、廃油タンク等の更新には百万円単位の資金が必要となり、予算上困難な状況です。今後もせっけん製造を継続するため、皆様のご寄付・ご支援を心よりお願い申し上げます。



〈お振込み先〉
 ゆうちょ銀行 登録者名:NPOせっけんの街 (エヌピーオーウセッケンノマチ)
 記号番号:振替:00140-3-178152
 当座:〇一九店(ゼロイチキュー) 178152